opusdei.org

神のいつくしみの秘跡:ゆるしの秘跡に ついて(VIII)悔い改 め

フランシスコ・ルナ著(新田 壮一郎訳) 『神のいつくしみ の秘跡:ゆるしの秘跡につい て』より

2024/09/12

これまでの記事を読む

悔い改め〈痛悔〉

罪を犯して失った神の友情を取り戻して失った神の友情を取があることがあることがあることがです。しかで涙をもしている。これでです。しかでいると思ってはないのではないののののののののののののののではないはないにしていると思うではないです。といるといるというです。

 由で、わたしたちの力が弱まっているからでしょう。

罪を悔むという時、どのような罪で あれ、罪となる行為や言葉などが魅 力的に見えなくなることではありま せん。そうではなく、二度と罪を犯 したくないという意志をもって罪を 嫌うことなのです。心の痛みとは、 「犯さなければよかったのに」、あ るいは「しなければ良かったのに | と思うことです。しかも、本当に有 効な痛悔であるためには、超自然的 な心の痛みでなければなりません。 すなわち、信仰にもとづく動機から 生まれる痛悔の念が必要なのです。 従って、何らかの形で、主に言及す べきです。究極の目的が神でなけれ ば、罪を赦してくださる神に近づく ことはできなくなります。自分自身 の貧しい、哀れな状態に閉じこもっ てしまうので、自分に欠けている恩 恵を得ることができなくなるので す。

痛悔の動機や理由はいろいろあります。しかし、すべてがゆるしの秘跡において恩恵を受ける準備になるとは限りません。誤った心の痛みをもって、前よりさらに神から離れるようなことが起らないよう注意しなければならないので

す。

三種類の心の痛みがあると言われて います。

れる悲しみの心で」(『道』 436)。

第二は、恐れと呼ばれるものです。 これは、後の世で受ける当然の罰を 恐れるところから生まれます。これ は第一の動機ほど完全であるとは言 えませんが、とにかく主のことを考 えているので、たとえ恐れだけでは あっても、赦しの恩恵を受けるには 充分です。

ことにあるのではなく、自尊心が傷つけられた結果だからです。

従って、このような痛悔だけなら、 ゆるしの秘跡に安心して近づくこと ができません。神の赦しを求める気 持など全くなく、いたずらに自己完 成を望んでいるだけなのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/itsukushimi-no-hiseki8/(2025/10/28)